

編輯後記

◻回顧する二五九八年、皇國日本の怒濤の如き世紀の足踏みを聴く。銃前銃後に揚る護國の熾熱は本化門徒の血汐と共に躍動する。そこに育まれた棲神本號は又ハリキツた内容を有するものと信ずる。

◻刻苦辛酸改年を俟たずしてこの發行を見るに嬉ばしい。二幹事は愛兒「棲神」完成後直ちに離郷渡陸するものである。

◻不備欠禮の點、御寛恕ありたい。

◻戦時下御多忙中玉稿を賜つた諸先生に深謝致します。

◻時勢に鑑み「法主即管長制度確立讃辭」を特編した。諸尊師に謹しみて謝意を表します。

◻清水龍山先生の玉稿、崎報發表のもですが棲神前號の結論なれば御共讀下され度い。

◻御用繁多の上疾病中の望月先生、懇願した玉稿を中途に編したことを御詫び致します。

◻學院關係の今事變に於ける出征、入營者芳名は校友會報及び庶務部々報に記した。御共覽下さい。

◻學生の登龍門として作品欄を創設した。今後繼續して學生の奮闘所としたい。乞ふ、之が充實を。

◻黄口の雛僧未經験の私達もどうやら大役を果した形、之も部長諸先生及び諸賢の御蔭厚く禮申上げます。

(熊谷、米澤)

昭和十三年十二月二十日印刷  
昭和十三年十二月廿五日發行

編輯人 山梨縣南巨摩郡身延町 今村是龍

發行人 山梨縣南巨摩郡身延町 熊谷海善

印刷人 山梨縣南巨摩郡身延町 池上荒一

印刷人 山梨縣南巨摩郡身延町 身延印刷所

山梨縣南巨摩郡身延町

發行所 祖山學院同窓會文學部